

## 日本医学会分科会活動報告

学会名(No.138 ) 日本婦人科腫瘍学会

代表者名 三上 幹男

I. 医学および医療の水準の向上への貢献が日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会の独自の活動を以下に留意して記載をしてください。

### a. 特に学術的に重要と考えられるもの

本会の主な学術的活動としては、(1) 学術講演会・教育セミナーの年次開催、(2) 学会の機関誌である日本婦人科腫瘍学会雑誌(年4回発行)とJournal of Gynecologic Oncology (JGO 誌:年6回発行)の発刊、(3) 婦人科腫瘍専門医試験の実施ならびに専門医の認定・更新、(4) 婦人科腫瘍の各種治療ガイドラインの作成・改訂(子宮頸癌治療ガイドライン、子宮体がん治療ガイドライン、卵巣がん・卵管癌・腹膜癌治療ガイドライン、外陰がん・膣がん治療ガイドライン、患者さんとご家族のための子宮頸がん・子宮体がん・卵巣がん治療ガイドライン)、(5) 学会員を対象としたリアルタイムのライブ配信によるWebセミナーの開催(月1~2回)、WEBセミナーの動画を教育用コンテンツとして集めてE-academyとしてHP上に掲載、webでのTumor Boardの開催、コルポスコピー研修会の開催、(6) 若手婦人科腫瘍医による基礎的ならびに臨床的研究に対する野澤記念研究助成の運営、などを行っている。

### b. 当該領域における国際的な役割

本会が本邦の婦人科領域における窓口となって、Asian Society of Gynecologic Oncology (ASGO)、International Gynecologic Cancer Society (IGCS)、The International Federation of Cervical Pathology and Colposcopy (IFCPC)等の婦人科腫瘍関連の国際学会の役員に会員を推薦し、関連学会における重要な役割を担っている。さらに、Korean Society of Gynecologic Oncology (KSGO)と密にミーティングを行い、JGO 誌への編集協力や学術集会時の人事交流など連携強化を努めている。又、IGCSの事業であるEarly Career NetworkやPreinvasive Disease "Train the Trainers" Courseに本会の若手医師が参画し、国際貢献と国際的な視点を有する若手婦人科腫瘍医の育成を行っている。2024年1月にIGCSとのアライアンスを締結し、本会の会員は自動的にIGCSの会員資格が付与されることとなった。2029年にはアジアで開催予定のThe Annual Global Meeting of The International Gynecologic Cancer Society (IGCS2029)の本邦での開催を目指し、誘致活動を行っていく予定である。

一方、卵巣がん・卵管癌・腹膜癌治療ガイドライン、外陰がん・膣がん治療ガイドライン、子宮頸癌治療ガイドライン、子宮体がん治療ガイドラインを英文誌に投稿し、海外に向けて発信することで高い評価を得ている。今後は、IFCPCのコルポスコピーに関するe-learningの日本語版翻訳を行う予定である。

### c. 活動からもたらされる社会的な意義

本会は、長年にわたり女性特有のがんである婦人科腫瘍の治癒向上に貢献してきた。各婦人科がんの治療ガイドラインを作製するとともに、婦人科腫瘍専門医制度を設け、婦人科腫瘍の診療に携わる専門医の教育・修練を行っている。これまでに弊会が定めた指定修練施設は全国に297施設で、総計1,225人の婦人科腫瘍専門医が誕生した。婦人科腫瘍専門医が在籍する指定修練施設での治療成績は、非修練施設と比べて統計学的に有意に良好であることが判明している(J Gynecol Oncol. 2018, vol. 29, e23)。こ

れは、弊会が行ってきた婦人科腫瘍専門医制度のプログラムが、我が国の婦人科腫瘍の治療向上に貢献し、がんに罹患した女性が治療後に活躍できる社会の実現に寄与してきたことを示している。

婦人科がん撲滅のための社会活動として AYA week 2024 および NIPPON 女性からだ会議を後援し、AYA 世代の中でも特に YA 世代がんの代表的ながんである、子宮頸がんに関する社会への啓発活動にも積極的に参画している。一般向けに「患者さんとご家族のための子宮頸がん・子宮体がん・卵巣がん治療ガイドライン」第3版を2023年に改訂発刊し、患者や家族の婦人科疾患に関する理解の深化に寄与している。さらに、学会 HP 上には、「動画アニメで婦人科がんのことを知ろう／患者さん向け動画アニメーション（23 の動画）を掲載し、適宜新たな情報に更新することで、一般の方や婦人科がん患者にむけて広く啓発活動等を続けている。卵巣がんに対する腹腔鏡下手術について、腹腔鏡下付属器悪性腫瘍手術の保険収載を目的に、先進医療申請の準備を行っている。

#### d.学会運営上留意している点

近年、他分野との連携において本会では、婦人科医以外の会員増加に関するワーキンググループを設立し、学会活動における病理医、放射線科（診断・病理）、腫瘍内科医の参画について、理事会への提言を行っている。また、多彩な働き方を支援し、本会内での活躍の場を広げていくことを目的として多彩なキャリアを支援するワーキンググループを設置した。今後は、婦人科腫瘍医をめざしている医学生、研修医、修練医をサポートする座談会の開催を予定している。

また、婦人科腫瘍分野の診療、研究、教育を牽引していく若手医師を募集し、Winter Gathering を開催した。公益性を重視し、市民公開講座の開催や、HP 上で患者教育のための教育アニメーションを公開している (<https://jsgo.or.jp/animationlist/>)。

#### II.日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会と他の分科会との連携による活動を記載して下さい。

本会と関連がある学会に所属している会員を委員とし、関連学会情報コミュニティー小委員会を設置し、情報の共有を行っている。他の分科会と連携し、書籍の共同編集・パブリックコメントの募集を行っている。また、卵巣がん・卵管癌・腹膜癌治療ガイドライン、子宮頸癌治療ガイドライン、子宮体がん治療ガイドライン、外陰がん・膣がん治療ガイドラインを日本癌治療学会 HP ならびに Minds ガイドラインライブラリ（日本医療機能評価機構）に掲載をしている。